

施策番号	0602		
施策名	歴史に培われた和の文化の継承と新たな創造活動の支援		
概要	伝統文化等を継承するため、国内外のひとびとが京都の伝統的な文化芸術を体験する機会を提供するとともに、若手の芸術家等の育成等を行い、創造的な活動を新たに生み出す環境を整備する。		
担当局・部室	文化市民局・文化芸術都市推進室	共管局・部室	行財政局・総務部
上位政策	6 文化		
施策に関する主な分野別計画等	第2期 京都文化芸術都市創生計画, 京都文化芸術プログラム2020 ⁺		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名	27年度	28年度	29年度評価						
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウエイト	
1 芸術大学における修士課程及び博士課程への進学者数(人)	c	d	57	55	69	79.7%	d	1.00	
2 伝統芸能等事業の入場者数(人)	a	d	6,325	7,648	6,787	112.7%	a	1.00	
3 東山アーティストズ・プレイスメント・サービスへの相談件数(件)	-	b	273	261	367	71.1%	e	1.00	
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
		b	c	客観指標総合評価				c	

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	27年度	28年度	29年度回答						
			そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない	有効回答者数	評価
1 京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。	a	a	160 29.6%	291 53.9%	65 12.0%	15 2.8%	9 1.7%	540	a
2 文化・芸術活動によって、京都のまち全体が活気づいている。	b	b	95 17.8%	248 46.4%	149 27.9%	24 4.5%	18 3.4%	534	b
3 -	-	-							-
4 -	-	-							-
5 -	-	-							-
		a	a	市民生活実感調査総合評価				a	

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている						
	重み付け	<input checked="" type="checkbox"/> 客観指標	c	<input type="checkbox"/> 市民の実感	a		
(重み付けの理由) 当該施策においては、施策の主な内容と客観指標とが端的に対応しているのに対し、市民の実感は他の文化芸術施策も包括した内容であるため、客観評価を重視する。						28 年度	B
(原因分析) 客観指標総合評価 <input type="checkbox"/> b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 <input checked="" type="checkbox"/> c評価以下であり、次の原因が考えられる。 市民等が伝統的な文化芸術を体験する機会が増加している一方で、「芸術大学における修士課程及び博士課程への進学者数」や若手芸術家の相談事業を行う「東山アーティスト・プレイスメント・サービスへの相談件数」など、若手芸術家の育成を示す指標は低調な結果となっており、若手芸術家はその地位が確立され、収入が安定するまで相当な苦労があることが背景にあると思われる。						27 年度	B
(原因分析) 市民生活実感調査総合評価 <input checked="" type="checkbox"/> b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 <input type="checkbox"/> c評価以下であり、次の原因が考えられる。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		29年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		28年度 決算額	29年度 予算額		
1	芸術文化協会交付金	24,824	24,824	良い	文化市民局
2	文化芸術を鑑賞・体験する機会を創出するための取組	19,484	20,926	良い	文化市民局
3	各種団体事業助成	25,205	26,403	良い	文化市民局
4	芸術活動支援	75,509	84,777	普通	文化市民局
5	文化芸術顕彰制度	7,067	6,273	かなり良い	文化市民局
6	古典の日推進事業	8,989	8,989	普通	文化市民局
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- ・引き続き伝統芸能事業等の広報・宣伝を行い、より多くの市民に伝統的な文化芸術を体験する機会を提供するとともに、京都を拠点に活動する若手芸術家に対し、既存の空き家や小学校跡地施設等を活用し、居住・制作・発表の場づくりといった幅広いサポートを実施するなど、大学等とも連携して、新たな創造活動の支援を図っていく。
- ・芸術大学においては、一人一人の状況に応じた長期的支援を行うため、専門スタッフを配置しているキャリアデザインセンターの活用により、就職支援及び芸術家へのキャリアサポート等の総合的な取組を進める。

施策名	0602	歴史に培われた和の文化の継承と新たな創造活動の支援
-----	------	---------------------------

指標名	芸術大学における修士課程及び博士課程への進学者数（人）
-----	-----------------------------

担当課	総務課	連絡先	222-3045
-----	-----	-----	----------

1 指標の説明

京都市立芸術大学における①学部卒業生のうち修士課程に進学した者及び②修士課程修了者のうち博士課程へ進学した者の合計数（進学先には他大学を含む。）

2 指標の意味

京都で若い才能が育まれていることを示す指標

3 算出方法・出典等

出典：学校基本調査

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度
数値	57	55	2人減	69	過去5年間(平成23～27年度)の最高値(平成23年度)	79.7%

	全国順位	中長期目標		
		数値	目標年次	達成度
数値				

備考	H23 69人, H24 46人 H25 61人, H26 60人 H27 57人
----	---

5 評価基準

最新の数値が、過去5年間の
a：最高値以上
b：上中間値（最高値と平均値の間）以上～最高値未満
c：平均値以上～上中間値未満
d：下中間値（平均値と最低値の間）以上～平均値未満
e：下中間値未満

6 基準説明

進学者数は毎年変動するものであり、一定安定的な数字と比較するため、過去5年間の数値をもとに、基準を設定した。
最高値：69（平成23年度）
平均値：58.6
最低値：46（平成24年度）

7 評価結果

27	28	29
c	d	d

指標名	伝統芸能等事業の入場者数（人）
-----	-----------------

担当課	文化芸術企画課	連絡先	366-0033
-----	---------	-----	----------

1 指標の説明

伝統芸能等事業（市民狂言会，京都薪能，市民寄席）の入場者数

2 指標の意味

市民等が京都の伝統的な文化芸術を体験する機会を提供していることを示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度
数値	6,325	7,648	1,323人増	6,787	過去5年間(平成23～27年度)の最高値(平成26年度)	112.7%

	全国順位	中長期目標		
		数値	目標年次	達成度
数値				

備考	H23 6,776人, H24 6,315人 H25 6,750人, H26 6,787人 H27 6,325人
----	--

5 評価基準

最新の数値が、過去5年間の
a：最高値以上
b：上中間値（最高値と平均値の間）以上～最高値未満
c：平均値以上～上中間値未満
d：下中間値（平均値と最低値の間）以上～平均値未満
e：下中間値未満

6 基準説明

入場数は毎年変動するものであり、一定安定的な数字と比較するため、過去5年間の数値をもとに、基準を設定した。
最高値：6,787（平成26年度）
平均値：6,591
最低値：6,315（平成24年度）

7 評価結果

27	28	29
a	d	a

施策名	0602	歴史に培われた和の文化の継承と新たな創造活動の支援
-----	------	---------------------------

指標名	東山アーティスト・プレイスメント・サービスへの相談件数（件）
-----	--------------------------------

担当課	文化芸術企画課	連絡先	366-0033
-----	---------	-----	----------

1 指標の説明

若手芸術家の相談事業を行う、東山アーティスト・プレイスメント・サービスへの相談件数。

2 指標の意味

若手芸術家やその活動を支援したい人など、様々な相談を受け、対応することで、創造活動を支援していることを示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度
数値	273	261	12件減	367	過去3年間(平成25～27年度)の最高値(平成26年度)	71.1%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値					

備考	H25 270件 H26 367件 H27 273件
----	----------------------------------

5 評価基準

最新の数値が、過去3年間の
a：最高値以上
b：上中間値（最高値と平均値の間）以上～最高値未満
c：平均値以上～上中間値未満
d：下中間値（平均値と最低値の間）以上～平均値未満
e：下中間値未満

6 基準説明

相談件数は毎年変動するものであり、一定安定的な数字と比較するため、過去3年間の数値をもとに、基準を設定した。
最高値：367（平成26年度）
平均値：303
最低値：270（平成25年度）

7 評価結果

27	28	29
-	b	e